

不祥事防止啓発DVD

「不祥事はひとつとですか？」

【DVDの取り扱い】

このDVDは、学校の教職員の不祥事防止のために作られたものです。

女子更衣室に教師が盗撮用カメラを仕掛け、生徒の画像がネットに流出した、という架空の事件を素材に、被害生徒、友人、家族、加害者の同僚の反応などを、一続きのドラマとして視聴できるようになっています。

現実の事件では、身近な者すら知らない背景や、複雑な事情があるために、事件の全貌を把握することは容易ではないのですが、ここでは視聴者を不祥事理解につなげる＜入り口＞として、わかりやすさを優先し、物語を単純化しています。

そのため、実際に性犯罪被害等に遭遇した被害者や家族の立場でこの物語を見ると、「こんな単純なものではない」と感じるかもしれません。逆にそうした経験がない一般の方が、目的意識を持たずに視聴した場合、単に「興味を惹くドラマ」と見なされてしまったり、場合によっては「学校ってこんなのか」など、誤解を招いてしまったりすることも考えられます。

そのため、このDVDはあくまで学校教職員が、不祥事防止を目的に視聴することを原則とし、物語の内容についても、研修の場以外で安易に話題にすることは避けてください。また、目的外にDVDを譲渡したり貸与したりしないようご注意ください。

1 物語のあらすじ

(1) 場面 1

ある中学校の部活の更衣室に小型カメラが仕掛けられ、女子生徒の着替え姿が盗撮されてネットに流出するという事件が起きた。犯人は同校に勤務する Y という教員である。事件はネットや SNS



で拡散し、生徒や地域住民の知るところとなった。

被害者の一人であるヒロは、Y のことを信頼できる教師だと慕っていた。ところが、このような出来事が起きたため、心に強い衝撃を受ける。誰に何をどう相談していいかも分らないまま、彼女は

ネットに流れる記事の濁流を呆然と眺めるしかなかった。

ヒロには、毎朝、待ち合わせて一緒に登校する親友のシオリがいた。シオリはシオリなりに、傷ついているヒロに気を遣い、慰めようとするのだが、二人の会話はちぐはぐなものとなってしまふ。



「あんたに何が分かるん！」

親密だった二人の関係にも亀裂が入り、ヒロはますます孤独になっていく。

(2) 場面 2

ヒロの家族も大きな影響を受けていた。母親は、自室に閉じこもってしまった娘の部屋をノックし、何とか元気づけようとするが娘の反応はない。



父親は娘の様子が気がかりでならないが、その一方で、事件が報道されるたびに不機嫌さをつのらせていた。事件は娘のせいでも、妻のせいでもなく、当たってもしょうがないとわかっていながら、娘の部屋の前からなすすべなく引き返してきた妻に怒りをぶつけ、学校からの電話に

は大爆発を起こしてしまう。

「すみませんじゃない！」

「あんたも人の親でしょう！」

学校への不信感が募る一方で、明るく平和だった家族がどん底まで叩きのめされていく。



この家庭に穏やかな日々が戻るのはいぶん先になるだろう。

(3) 場面 3

事件現場となった中学校も大きな影響を受けていた。



校門周辺にはマスコミが取り囲み、教師たちは何を聞かれても答えることができず、固い顔のまま出勤する。

若手の女性教諭 A は、「マスコミにいろいろ聞かれるのはしょうがないけど、保護者や地域の人たちに合わせる顔がない。卒業生にだって影響は出ている」と、教頭に悲しみと怒りを訴える。

A と話しながら教頭は、前年度の不祥事防止研修を、自分が司会をして実施したことを思い出していた。教育委員会から届いたシナリオに沿って盗撮についての事例検討を実施したが、グループ協議の時間がなく、ひとりの教師の提案で「グループ協議は後日に」ということで終わってしまっていた。

「あのときグループ協議をしていたら Y はこんなことをしなかつたらどうか」

「いや、そんなはずはない。同じことだ」

教頭の心は揺れ動いた。



(4) 場面 4

事件後、地域の校長は教育委員会に招集され、教育長から厳しい訓示が行われた。翌日、自校に戻った校長は、研修会前に所属職員に挨拶する。



「この近くの学校で残念な事件が起きたのは皆さんご存知の通りです」

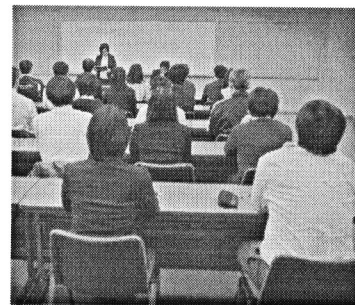
「皆さんが頑張っているのはわかっているが、一部の者のためにこのようなことになりとても悲しい」

「今一度気を引き締めてほしい」

熱のこもった真剣な訓示

で、多くの教師たちは硬い表情で聞いていたが、中には少し気持ちが緩んでいる教師もいた。

校長の話の聴いている途中にあくびが出てしまった男性教諭 B。



彼の背後にはいつのまにか、二つの不思議な影が忍び寄っていた。

「ちょっと、ちょっと」

子どものような影がB先生に話しかける。

そして・・・。



2 研修前の注意

このDVDでは、被害に遭った生徒の心理的打撃の深刻さや、その家族が受けるダメージを理解することをねらいとして、盗撮被害に遭った生徒やその家族が登場します（場面1・場面2）。受講する教職員の中には、自分自身が盗撮の被害を受けた方がいるかもしれません。研修を実施する際は、そうしたことを意識し、配慮しつつも、学校が不祥事の現場となり、児童生徒が被害に遭うことのないよう、こうした研修で意識を高めていくことが必要である、ということをも十分説明して、研修への参加を促してください。

3 研修におけるDVDの使い方

年間のコンプライアンス研修計画の初期の時期に教職員を集めて視聴します。単に視聴だけで終わるのではなく、視聴後に必ず小グループ活動の時間を取って、場面ごとの感想をグループでシェアするようにしてください。

また、場面3は「時間が限られている中で研修の質の重要性」を考えることをねらいとしています。視聴後に、年間計画でグループ協議を取り入れた研修を予定していることを伝え、教職員の動機づけにつなげるのもよいでしょう。

【使用例1】

○4月の研修で、場面1～場面3（動画約13分）を視聴

場面1～場面3は短いので連続して視聴し、場面3まで見終わった後に、小グループに分かれて感想を述べあってみてください。もちろん、「現実にはこんなふうにはならないだろう」という感想があってもよいでしょう。

時間にゆとりがあれば、①「学校が被害生徒宅に電話をかけて、父親の怒りの火に油を注いでしまっている場面」について、どのようにすればよかったか、②教頭の葛藤内容「グループ協議をしていればYは事件を起こさなかったらどうか」などの小テーマを話し合ってみるという方法もあり

ます。

いずれにせよ、内容が大変重苦しいので、各グループの発表の後に、司会者は両手を上に挙げて背伸びをさせるなどリラクゼーションを行うようにしてください。

○5月の研修で、場面4（動画約8分）を視聴

場面4は、ややコミカルなつくりになっています。そのため、場面4だけを視聴する研修会では、娯楽的な視聴に終わってしまう人が出てきますので、グループワークの途中で司会者が何げなく「これはコミカルなドラマに見えるけど、実はとても恐ろしいことが語られていると思いませんか」と投げかけるというやり方もあるでしょう。

【使用例2】

○4月（又は5月） 場面1～場面4（動画約21分）を連続で視聴

4つの場面を連続して視聴すると、場面4で緊張緩和が起きるので、場面1～3を見た後の重苦しい気分が消えてしまいます。その結果、グループワーク後のリラクゼーションの必要はなくなるのですが、場面1～3で感じてほしい「事件の深刻さ」が薄れてしまうという「痛しかゆし」の側面があります。

グループワークでは「全体の感想」を述べ合う前に「場面1～場面3の感想」をシェアする、という段階的なやり方が良いかもしれません。

※ コンプライアンス推進員は、所属の先生方の顔を思い浮かべて、「1から4の連続視聴」が良いか、「1～3のみを4月、4は5月」と分けた方が良いか、考えてみてください。（次ページの受講者配付資料についても、「視聴前の配付」が良いか、「視聴後（グループ協議前）の配付」が良いか、あわせて考えてみてください。）

4 制作著作

制作著作：岡山大学大学院教育学研究科

制作協力：福山大学・岡山県教育委員会・RSKプロビジョン

企画：岡山大学・岡山県教育委員会連携協力事業（DVD作成専門部会）

出演：岡山劇団SKAT!!・岡山県高等学校演劇協議会・岡山大学大学院教育学研究科・岡山県教育庁・教育事務所・教育機関・県立学校のみなさん

不祥事防止啓発DVD「不祥事はひとつとですか？」

	物語のあらすじ	視聴のねらい
<p>場面 1 被害に遭った生徒と友人の登校場面</p>	<p>早朝の街角。同級生を待ちながら、被害生徒はスマホ画面を見ている。画面には「学校教師また不祥事!」の文字。 同級生と二人で歩きはじめるが、事件の話題では会話はかみ合わない。とうとう二人は・・・。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被害に遭った生徒の心理的打撃の深刻さを理解する。 2. 生徒同士の間関係にまで影響が出ることを理解する。
<p>場面 2 被害生徒の自宅 家族の姿</p>	<p>被害生徒の家。生徒は自室に閉じこもっている。心配した母親がドアをたたくが反応はない。父親は、なすすべなく戻ってきた母親と話し始めるが、自然と言い合いになる。 学校から、生徒の様子を聞く電話がかかってくるのだが・・・。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被害生徒の家族が受けるダメージを理解する。 2. 有事の際の対応、特に家族への声のかけ方や、怒りの受け止め方について考える。
<p>場面 3 当該学校での 教師の対話・追想</p>	<p>事件のあった学校。女性教師が教頭に出勤のつらさを訴える。「保護者の視線が怖い」。 やがて会話は不祥事防止研修に移り、「事件を起こした先生も研修に出たのでしょう。意味のない研修なら出たくないです」と教頭に詰め寄る。教頭は前年の校内研修を思い出す・・・。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事件の影響の大きさや広がり(在校生・教師集団・卒業生・地域社会)を理解する。 2. 学校でできる危機対応について考える。 3. 限られた時間のなかで行う不祥事防止研修の「質の重要性」について考える。
<p>場面 4 近隣校での校長訓示 聴講する教諭 そして</p>	<p>近くの中学校。校長が教員を前に、緊急の校長会での教育長からの訓示内容を話している。 教師たちは真面目に聴いているが、1人の教師があくびをかみ殺す。その教師の背後には、いつの間にか・・・。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上司からの訓示の効果の限界について考える。 2. 「自分是不祥事を起さない」「だから自分には関係ない」という他人意識をもっている主人公の考えを、どうすれば変化させられるか考える。